

同友ごてんば速報版

県事務局御殿場支部担当 佐藤 靖真

<第295回> 9月支部例会

『町の発展、企業の発展』 ～ビジョンが町を変え、企業を変える～

(講師) 神奈川県足柄上郡 開成町 町長 露木順一氏



<講演中の様子>



<講師 露木順一氏>

9月9日(水) 第295回 同友会御殿場支部9月例会が、エピ・スクエアにて開催され、講師に神奈川県足柄上郡 開成町 町長 露木順一氏をお招きし講演していただきました。

開成町は、神奈川県西部、足柄上郡の中央部にあり総面積は、6.5平方キロメートル。山中湖とほぼ同じ広さです。『開成町』の由来は、明治時代に開校した開成小学校からきています。『開成』の意味は、『開物成務』(かいぶつせいむ) …『学問、知識を開発し、世のため成すべき務めを成さしめる』という意味が込められています。

開成町で注目すべき点の1つとして、人口が増えている事があります。人口の自然増は、神奈川県トップ(静岡県は-0.31%の自然増だが全国11位。日本全体の人口が減少局面である。)合計特殊出生率も神奈川県トップ。では、なぜ人口が増えているのか?その理由は、開成町には40年前からこの町を“こういう町づくりをしよう”という長期ビジョンにあります。

開成町長期ビジョンの注目する点は、土地開発が盛んに行われていた高度成長の真っ只中に、開成町の水田(美しい環境)をきれいに整備して残し、土地開発にも制限を付けて計画的に整備をしてきた事があります。

目先の利益・今儲かる、今いいからといって大切な土地を無駄遣いしてしまったら取り返しはつきません。『ある事柄を一貫して、きちんと続ける事によってその方向が間違っていなければ、必ず花開く。』と仰っていました。

現在町長である露木の父親も20年間町長を務め、高度経済成長期の中、土地開発を推し進めたい方々とのすったもんだ(反対運動)があり町長を務めた翌年に亡くなってしまいました。しかし、40年前から掲げた開成町のビジョンは生き続け1998年に露木順一氏が町長に就任します。すでに反対運動もおさまり、開発もビジョンに沿って自由に出来るようになり、きれいな環境の町に住みたいという人が徐々に増え着実に人口が増えています。

露木町長は、目先の利益を我慢して長期ビジョンを優先した事。自分の足元に原点がある事。(古いものでもこれだと思う原点を見つけたときは、かならず未来に光を発する何か(新しい価値)が生まれるから、新しいものだけを追い続ける(外を見る)だけはいけない。)開成町の先人が残してくれた財産(土地や環境)を活かし、後世に渡せるように務めることの大切さを町づくりを通して感じたそうです。そしてこの考え方は、企業にも同じことが言えるのではないかと仰っていました。

県代表理事 長島 晃一氏の謝辞では、この厳しい経済の状況下で、理念では飯は食えない言葉も言われていますが、『ある事柄を一貫して、きちんと続ける事によってその方向が間違っていなければ、必ず花開く。』という言葉が強く印象に残り、経営者として経営指針を元に日々努力をし、希望を持って行きたいという謝辞をいただき9月例会が閉会しました。